



週)報

2014~2015年度)) R I 会長)ゲイリー C . K .ホアン)
R I のテーマ) 『ロータリーに輝きを』)
地区のテーマ)))「行動) ACTION」) ガバナー)坂本元彦)

国際ロータリー
第2570地区

狭山中央ロータリークラブ

〔例会場〕狭山東武サロン〒350-1305) 狭山市入間川 3-6-14) TEL)04-2954-2511
〔事務所〕〒350-1305) 狭山市入間川 1 -24-48) TEL)04-2952-2277) FAX)04-2952-2366
<http://www1.s-cat.ne.jp/schuohrc/E> - mail:schuohrc@p1.s-cat.ne.jp
会長)稲見) 淳) 会長エレクト)江原伸夫))副会長)坂本松男) 幹事)江原伸夫)

〔第3グループ内の例会日〕 狭山(金)、新狭山(月)、入間(木)、入間南(火)、飯能(水)、日高(火)、狭山中央(火)
所沢(火)、新所沢(火)、所沢西(火)、所沢東(木)、所沢中央(月)

第1032回(3月17日)例会の記録

2014~2015年度 第2570地区第3グループIMに振替 (3月14日)

出席報告

会員数	出席者数	出席率	前回修正
40名	36名	84.62%	65.79%

IMプログラム

第一部式典

司会ホストクラブ S A A 佐藤圭司

- 12:00 登録
- 13:00 点鐘 ガバナー補佐 沼崎正徳
国歌斉唱 ソングリーダー 柴田譲
奉仕の理想ソングリーダー 柴田譲
開会宣言 実行委員長 栗原成実
(物故者黙祷)
歓迎の言葉 ホストクラブ会長 稲見 淳
開会挨拶 ガバナー補佐 沼崎正徳
来賓紹介 ガバナー補佐 沼崎正徳
(狭山市長、ガバナー、地区幹事、パスト
ガバナー、他グループガバナー補佐)
来賓挨拶 狭山市長
仲川幸成様
来賓挨拶 ガバナー 坂本元彦様
- 13:50 諸事お知らせ
~~~~休憩(10分)~~~~
- 14:00 記念演奏会  
弦楽四重奏  
栗原ディクソン麻里様 他  
合唱『奉仕の理想』、『花は咲く』  
~~~~休憩(5分)~~~~
- 14:35 記念講演 『次代を育てる』
講師:元プロ野球選手
石毛宏典様
- 15:30 講評 ガバナー坂本元彦様
次期ガバナー補佐について
ガバナー補佐 沼崎正徳
- 15:45 閉会点鐘
ガバナー補佐 沼崎正徳
~~~~会場移動・休憩(15分)~~~~

#### 第二部懇親会

司会 ホストクラブ幹事 江原伸夫

- 16:00 開宴挨拶 ガバナー補佐沼崎正徳  
来賓挨拶 ガバナー 坂本元彦様  
乾杯発声 入間RC会長 加藤国夫様

~~ご歓談・BGM生演奏(約60分)~~

演奏:栗原ディクソン麻里様 他

- 17:15 挨拶 パストガバナー石川嘉彦様  
中締め 新狭山RC会長 伊藤宣明様  
ロータリーソング『手に手つないで』  
参加者全員  
大締め 狭山RC会長 大澤譲司様  
終宴挨拶 実行委員長 栗原成実
- 17:30 お開き

### インターシテイミーティング



IMテーマ

『ロータリーを楽しみ、思いを次代につなぐ』

## 開会宣言

栗原成実実行委員長



公私に渡り土曜日、月末、年度末ということもありまして、お忙しい中、IMの開催の案内を致しましたところ、多くのロータリアンに参加して頂きました。大変ありがとうございます。感謝を申し上げます。

私は狭山中央ロータリークラブのメンバーで、今回このIMに際しまして実行委員長を命じられた、栗原成実と申します。不慣れでありますので、なんとなく不安な所がたくさんあるのですが、どうぞ皆様の「Dear Friend」という言葉で、ご容赦願えれば有り難いと思っております。

今日は狭山市長仲川幸成様、国際ロータリー2570地区の坂本元彦ガバナーのご来賓を賜りまして、大変ありがとうございます。どうぞよろしく願い申し上げます。

IMにつきましては、この後ガバナー補佐の沼崎より主旨等色々あると思いますが、なにせ我々のクラブは12クラブの末弟ございまして、初めてのIM開催ということになりました。クラブ全員で、なんとかこのIMを皆様が楽しんで頂けるようにと日々努力してまいった次第でございます。会議の中で、とにかく初めてのことから大変だろうけれども、思いやりの心で皆様を出来るだけIMに参加してよかったと思えるようにしようという心意気でここまでやって参りました。今日はこの後バイオリンによる四重奏、並びに石毛宏典さんの講演がございますので、意義ある一日にして頂きたいと思っております。

ただ今より、第3グループIMの開催を宣言致します。宜しくお願い致します。

## 歓迎の言葉

ホストクラブ会長 稲見 淳



国際ロータリー第2570地区・第3グループのIMを開催するにあたり、このように大勢の方に出席

席頂きまして、本当にありがとうございます。今日は公務お忙しい中、仲川幸成狭山市長、ご出席ありがとうございます。そして国際ロータリー2570地区坂本元彦ガバナー、石川嘉彦パストガバナー、地区役員の皆様、ご出席ありがとうございます。そして我々第3グループ12クラブの会長・幹事を始めとして、このように大勢のロータリアンにお集まり頂きましたこと、私共ホストクラブの狭山中央ロータリークラブを代表し、御礼申し上げます。ありがとうございます。

沼崎正徳第3グループガバナー補佐の元、テーマ「ロータリーを楽しみ、思いを次代につなぐ」を今日のプログラムにさせて頂きました。まず、弦楽四重奏の記念演奏、そして石毛宏典様による記念講演、そして第2部と致しまして、懇親会を準備しております。今日はIMのテーマに則って、「楽しむ」ということを第一目標に企画させて頂きました。是非12クラブの垣根を取り払い、親睦を深めて頂き、そしてロータリーを勉強して頂きたいと思っております。ご協力宜しくお願い致します。

## 開会挨拶

ガバナー補佐 沼崎正徳



国際ロータリー2570地区の第3グループ、第3グループでは他の所でIMは既に完了しております、私共の所が最後となります。そんなわけで、本日は開会させて頂きます。ご多忙の中ご臨席頂きました仲川狭山市長、さらに私達の地区のガバナーでいらっしゃいます、坂本ガバナー、地区幹事の深谷さん、私と一緒にガバナー補佐をして頂いた4名の方々、12クラブの面々の方々、そして色々な関係者の方々に今日ご出席頂きまして、本当にありがとうございます。上手な挨拶は出来ませんが、ほんの少し、狭山市について話をさせて頂きます。

狭山市は今から60年前、昭和29年7月1日に人口3万人ちょっとということで発足致しました。当初狭山市の設立の構想は、入間川町と隣の豊岡町が一緒になって狭山市ができるということだったそうですが、中々話がうまくいかず、入間川町を中心に、周りがある5つの村が一緒になって誕生したのが、その年の狭山市のスタートとなります。こうしたことから、色々不思議な面白い話がございます。狭山市の中に入間という地名があったり、或いは入間市の中に狭山という地名があったりしまして、遠くから引越してきた方が入間



だから入間市の市役所に住民登録に行くと、違うと言われたという話もあったと聞いております。そしてこの町には昭和 13 年に陸軍航空士官学校という飛行機乗りの学校ができて、それが戦後、アメリカ空軍のジョンソン基地となり、現在の航空自衛隊入間基地になっております。毎年 11 月 3 日に開かれます航空祭には、ブルーインパルスの曲技飛行等、見事な飛行機が見られます。およそ 10 万人を超えるお客様がいらっしゃる、そのような町です。

工業の生産高と致しましては、長年埼玉県 1 を続けてまいりましたが、ホンダ技研工業の自動車の生産高の影響がございまして、今は少し追いつかれております。

農業関係におきましては、狭山茶という名前で、「茶、香る町」というキャッチフレーズがございまして。ところが入間市や所沢市の方がお茶の生産量としては上であります。

仲川市長は私たちのクラブの名誉会員でございまして、実績も業績もご苦労も非常に多い方でいらっしゃると思います。一番最近聞いた話では、やはり出生数が減少しているということに心を留められ、若者の出会いの場を設けるという粋な計らいもなさっております。

いよいよ IM の話をさせていただきますが、IM は Intercity Meeting ですが、日本語では都市連合会という訳がございまして。私は今日の会合を 12 クラブ合同の例会であると捉え、皆さんがロータリーを楽しみ、さらに親睦を深める、こうした会にしたいという気持ちであります。

現在私達ロータリークラブはメンバー数の減少や高齢化等、そうした意味で同じような問題を抱え、将来をどうしたらよいかという意味での問題を一緒に持っていると思います。これは気持ちだけの話なのですが、そうした問題点に対して、ベクトル合わせが出来る会になれば最高だと考えております。「ロータリーを楽しみ、思いを次代に繋げる」、こうした気持ちで題を付けさせていただきました。

後程講演して頂きます、元西武ライオンズの石毛宏典選手に対しましては、彼は現在野球を通じて、次の若者を育てるということに腐心されております。それと同じ意味で、私達がロータリーの時代を育てる、こうした形で彼の思いを熱く語って頂く、そうした思いをお願いしております。

実行委員会の皆さん方には、本当に私の出来ないことを、色々な事に渡ってご苦労して頂きました。その方々に私は最大の感謝と、今日お集まりの皆様へ感謝を頂きて、挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

## 来賓挨拶

仲川幸成狭山市長



今日は国際ロータリー2570 地区、第 3 グループの IM にお招きを頂きまして誠にありがとうございます。

今日は土曜日ですが、狭山市は第 2 土曜日が学校の登校日ということになっておりまして、市内では中学校の卒業式を行っており、おめでたい一つの日となっております。この会場でも 5 市から 12 のロータリーにお集まり頂いてミーティングするというので、狭山市においで頂きまして歓迎を申し上げる次第でございます。

狭山市におきましては、近年少子化、人口減少、このようなことがこの自治体でも喫緊の課題となっております。ちょうどこの第 3 グループの所沢、狭山、入間、飯能、日高においては消防が昨年度から一つになりまして、埼玉西部消防局ということで発足し、活動しているということ、さらには埼玉県地域振興センター、これも所沢に拠点を構えておりますが、5 市で広域行政を進めようと事業をしております。皆さんのグループと同じ範囲ということで、色々な意味で連携の取れる組織であると思っております。

埼玉県は、昔は入間郡の範疇で、川越が中心となり行政を行っていましたが、人口が増えたということで細分化を致しました。税務関係、環境関係、保健所の関係等、皆部署によって組み合わせが色々あるわけですが、私達は今ダイヤモンドというものを、日高は入っておりませんが、4 市で連携しております。日高もそのうち入ればという話だったのですが、日高は川越と付き合いしておりますのでしばらく両方と付き合いたいということで、沢山お金がある市はそれでも良いだろう、そのうち入りなさいという話をしております。

私が見ますと、日高市とは飯能寄りや川越寄りがあるようでして、市長が飯能寄りになると私たちの方へ顔を見せてくれるのですが、川越寄りになりますと冷たくなってしまったり、そのような状況もあるようでございます。しかしいずれに致しましても、埼玉西部地区はこの 5 市でもつという意識でありますので、色々な意味でロータリーとも協調していけば有り難いと思っております。

今日のテーマ「ロータリーを楽しみ」ということでありますが、私は若い頃から地域活動をずっとしてまいりました。地域活動や奉仕活動とは、やはり行っている人が使命感に燃えて行っているだけ

では何もならないと思います。することによって自分が本当に充実感を感じたり、楽しんだりということが、次への更なる奉仕活動への飛躍になるとつくづく思っております。

市長就任以来、「地域の元気さ」ということは私の前々からの使命感でありましたので、各地区に町づくり協議会を作って頂いて、そしてその町づくりで新たなそれぞれの地域での歴史や文化、産業、教育福祉に至るまで、皆で良い所を伸ばしていこうという政策を致しました。皆さんから見たら額は少ないのですが、各地区に100万円ずつ出し、自由に使って良いので各地区の特長を出して欲しいということで、その町づくりが進んでおります。しかし今、その町づくりを進めていく人材の養成も必要だということで、元気大学、今は市民大学と呼んでおりますが、そこで人材の養成のための講座を致しました。そうしましたらその人材が地域活動もそうですが、NPO法人を作ってくれまして、地域奉仕活動的な仕事をたくさんして頂いております。まさに自分の生き甲斐をそこで見出しているというグループも沢山あります。今一番大切なものは人の結集であり、そしてその人が知恵や汗を出しあい、社会の一員として社会奉仕をして頂くということをやより大きくしていかなければ、これからの社会、立ち行かないのではないかと考えている次第でございます。

今日も中学校の卒業式で、教育委員会があいさつ文を書いてくれるのですが、なかなか難しく、分りづらいものですから、私は簡単に言おうと思ひまして、「皆さんはパソコンや携帯電話、LINE等を使って自分を高めているようだけれども、何よりも大切なことは、人の目を見て、会って、直接話をしたり、直接相手の心をつかむことだ。それには一人でなく、より大勢の人に関わることが大切だ」と話してまいりました。まさにロータリー精神、こうして一堂に会して、今までと違った新たな材料を見つけるということは、非常に大切だと思っております。

今日のミーティングがさらに友好の輪を広げ、自分自身にとっても未来に向かって更に羽ばたける機会になって頂ければ有り難いと思っております。2570地区、第3グループの益々のご発展をご記念致しまして、お祝いの挨拶に変えさせて頂きたいと思ひます。本日はおめでとうございませう。



第3グループ各クラブバナー

## 来賓挨拶

### 国際ロータリー第2570地区

ガバナー坂本元彦様



私の言いたいことの半分は狭山中央の会長さんと沼崎補佐さんがおっしゃって、後の半分は仲川市長さんがおっしゃいましたので、余り言うことは無いのですが、少しだけお話をさせていただきます。誰かをどうこうということではありませんので、誤解のないようにして頂きたいのですが、私は元々、挨拶は短い方が良いと思っております。IMの事について申しますと、先ほど沼崎補佐さんが狭山市の成り立ちということを少しおっしゃいましたので、ご存知だと思いますがIMの成り立ちについてお話をさせていただきます。

1926年に日本で6つの市にロータリークラブがあった時に、大阪の方で第1回目が行われました。次の年の1927年に東京で行い、その次は名古屋で行いました。この名古屋で行った1928年に、日本が当時70地区ということになっておりましたが、初代ガバナーに米山梅吉さんがなったということです。そしてその次の年から、これが地区大会ということになっていきました。

歴史から見ると、都市連合会(IM)の方が地区大会よりも古いのです。だからどうだというわけではないのかも知れませんが、90年にならんとする歴史があるわけです。IMというものの歴史も大事でしょうし、先程来おっしゃっていますように、こうした所に集まって、人と人が集まれば、摩擦熱と言いますか、熱が発生する、熱気が出てくるという中で、我々ロータリアンが色々今後のロータリーをどう考えていくかということ、当然「ロータリーを楽しむ」ということは大切だと思ひます。そして楽しむ以上は、ロータリーの神髄をわからなければ楽しめないと思ひます。

皆さんも自分のご職業、それを自分のご子息なり家族の方に継がせようとする時に、良いと思えば継いで欲しいと、しかしお父様が息子さんに俺の仕事なんか継ぐことないということになると、それはその仕事が面白くなくつまらないという思いだから、そうおっしゃるのだと思ひます。このテーマに書いてあります「ロータリーを楽しむ、思いを次代につなぐ」ということになると、その思いはそもそもロータリーが楽しいものである、良いものである、次の世代につなげていくのは、このような良いことがあるから、楽しいことがあ



るから、だからつなげようということになるはず  
 です。それが無い限りは、つなげるということが  
 出来ないと思います。このような所が集まって頂  
 き、名前はともかくと致しまして、ご自分のクラ  
 ブを越えた、垣根を越えたロータリアンと話し合  
 い、そして色々なことを考えていくということが  
 大切なことだと私は考えております。

地区大会しかり、クラブの大会しかり、都市連合  
 会しかり、そのような所で皆様の英知を集め、そ  
 してこのような所で素晴らしい方をみたら、次の  
 世代のリーダーには彼が良いのではないかと、彼を  
 育てていこう等、そのようなこともあって然るべ  
 きかと思えます。色々なことで皆様同士がロータ  
 リーの事を話し合っ頂き、そして素晴らしい第  
 3 グループとして頑張っ頂く、それがご自分の  
 クラブの発展にも通ずることでもあるし、またそ  
 れが地区の発展等、そのような継続性にもつな  
 がることだと思っております。

第3グループは、第5グループある中の真ん中  
 で、地理的にもそうかもしれません。是非中核と  
 なって頂くようなグループづくりを頑張っ頂き  
 たいと思えます。

最後になりましたが、当地区の全ロータリアン  
 を代表致しまして、本日のこの IM が素晴らしい  
 ものになることをご祈念致しまして、簡単ですが  
 ガバナーとしての挨拶と致します。ありがとうございました。



## 記念演奏会

弦楽四重奏

栗原ディクソン麻里様他 4 名



## 記念講演

...紹介...

佐藤圭司会員

プリンスホテル入社後、西武ライオンズに入団し、西武黄金時代のチームリーダーとして活躍、その後福岡ダイエーホークスに移籍、福岡ダイエーホークスの二軍監督を引退後、野球解説、野球評論家を務め、オリックスブルーウェーブ監督を歴任し、その後日本初の独立リーグである、四国アイランドリーグを創設致しました。また、城西国際大学客員教授にもなり、学生にスポーツビジネスを伝えながら、現在は野球に挑戦する若者の夢の場を数多く創設していらっしゃいます。本日は「時代を育てる」をテーマに、講演をお願い致しております。宜しくお願い致します。

講 師 元プロ野球選手 石毛宏典様



佐藤圭司さんとは、西武ライオンズ時代の私の専属トレーナーでございました。声は良いのですが、トレーナーの方の腕は今一つでございまして、その罪の意識からなのか、狭山中央ロータリーでも一度講演、卓話等をさせて頂いて、「俺がもう少ししっかりしていれば、石毛の選手寿命も延びたのにな」という罪の意識があったからこそ、またこうした場を与えてくれたのかなと思っております。

私自身、IM ( Intercity Meeting ) は 2 度目でございます。1 度目は 11 年前に四国アイランドリーグを立ち上げた時に、高知で、四国四県の IM をやらせて頂いた経験がございます。今日は皆様ロータリアンにとりましては、非常に大事な行事の、そして非常に大事な時間の講師としてお招き頂きありがとうございます。

「時代を育てる」というテーマを頂きました。この時にも佐藤さんから、言うてはいけないことを色々釘を刺されておりますので、その意識はあるのですが、時々踏み外すのが私の良い所と欠点でございます。宜しくお願い致します。

2015 年のプロ野球が、3 月 27 日を迎えて、今オープン戦の佳境に入ってきました。そしてまた、その前には 12 球団のキャンプがございまして、例年通りまた佐藤さんと共に、宮崎に向いてキャンプの視察等をしてきました。西武ライオンズ、ソフトバンク、オリックスのチームを見て帰ってきたのですが、狭山中央ロータリーで話をさせて頂いた松坂大輔、私がいままで長続きはしないと申したらその通りになってしまいまして、私たちにとってはあまり嬉しくないニュースでございますが、その松坂がアメリカのメジャーからソフトバンクに帰って参りました。4 年で 20 億円です。凄いです。

では彼の力はどうか、彼のフォームは直ったのかということですが、オープン戦に 2 回登板致しましたが、1 度目はまあまあ、2 度目はダメでした。評論家の方々も少し心配だと、往年のフォームには返っていないと言っております。佐藤義則コーチや工藤新監督が付きりで指導しておりますが、なかなかフォームとは直りようがなく、非常に難しいのかと思います。今年 1 年ピッチャーをしてみても駄目だったら、野手でいこうと、工藤に忠告をしてまいりました。

投げ方とはなかなか良くならないのです。染みついた癖というのは、なかなか直りません。オリックスの糸井も昔はピッチャーでした。ヤクルトの雄平もそうだったと思います。ボールが速い、コントロールが悪い、しかしコントロールが良くなって化けたら面白いなと言って化けた選手はいないわけですね。それほどスローイングは厄介です。一方ヤンキースから広島に帰ってきた黒田は、40 歳で帰ってきましたが、20 億円のオファーがあった様です。それを断り、4 億円で古巣広島に帰って来た、男気黒田、そういう評価がございます。

では実際問題、彼のピッチャーとしてはどうかと言いますと、前回ヤクルト戦で登板致しました。その当時は打者 13 人に対して 39 球、完璧でございました。アメリカのメジャーリーグが使用するボールというものは、コスタリカで作っており、非常に粗悪な質の悪いボールでございます。縫い目がバラバラ、表面が滑る、よくメジャーリーガーが唾を付けたり致しますが、そんな中で彼は順応してきたわけです。我々日本人はフォーシームと言って、4 つの縫い目を上手く指にひっかけ、回転の良いボールを放ろうという教育を受けてきました。しかしメジャーリーガーのピッチャーはその粗悪なボールが元にあるものですから、フォーシームはいらない、逆にツーシームと言って、空気抵抗を多くし、変化をさせようという、いわゆるバットの芯を外して打ち取りましょうという魂胆です。粗悪なボールだからこそ、そういったものが出てきたのだと思います。

日本のボールは今ミズノが中心に、中国で作っております。それでもメジャーのボールより遥かに質の高いボールです。黒田が日本に帰ってきて、日本のボールを使いあれだけの変化が出来るのかということは疑問でした。しかし黒田は、その質の良いボールをより武器にして、コントロールを付けてきたのです。それによって 13 人、39 球という完璧なボールを作っていたわけです。

松坂は未だにフォームを考え、如何に良いボールを投げようかと考えています。黒田は、如何に打者を打ち取るか、そこに重点がいております。スタートラインでもうだいぶレベルが違うなといった所でございます。ですから、早めに見切りを付けて、野手転向になった方が良いでしょうということです。彼はバッティングも良く、ゴルフも上手です。ゴルフが上手な人は大体バッティングが上手いのです。

次に、ダルビッシュ有が 3 月 17 日に肘の靭帯の断裂、いわゆるトミージョーンズという手術をするようです。昨年田中将大が同じような部分断裂の診断を受けました。しかし彼は持ちこたえ、手術をせず、昨日も良いピッチングをしておりましたが、今に至っております。ダルビッシュを始め、日本から行った和田、藤川、松坂もこの手術を受けています。これには色々な理由が考えられます。先発ピッチャー中 4 日で休む期間が少ないということ、ベンチ入りメンバーが少ないので登板過剰になり易い、もう一つ一番厄介なのは、その滑るボールを最後指先の 2 本で押さえつけます。そうした時に、この 2 本の延長の筋肉に多少の負荷がかかり、それをやりすぎるとひじ痛にくるのかということが考えられます。

野手、西武ライオンズの中島がオリックスに、日本ハムから行った田中健介がまた日本へ帰ってまいりました。田中健介はともかく、中島は結構な数字を残すのではないかという気が致します。そして西武ライオンズドラフト 1 位の高橋光成で

すが、シニアディレクターの渡辺久信前監督が「石毛さん、彼はとても良いですよ。期待して下さいね」と言っておりましたので、私は宮崎キャンプが終り、彼一人を見るために高知のキャンプに行きました。立派な体で、ボールも速いです。非常に期待が持てるピッチャーでございます。

西武ライオンズは、今おかわり君等ホームランバッターがおりますが、どうしてもピッチャーが問題だということで、今年の西武ライオンズは菊池雄星の出来次第で、優勝も有り得るかと思っております。そしてこの高橋光成ですが、私は早い段階で一軍に来て良いのではないかと思います。そしてキャッチャーは森友哉と、若いバッテリーで西武ライオンズの売りを作っていけば、楽天に同期入団した愛媛県済美高校・安樂、この辺も刺激をされて頑張るだろうと思っております。

楽天の安樂は昨日イースタンリーグで登板し、良いピッチングをしているようです。この若い二人が頑張ってくれば、当然大谷翔平も黙っていないだろうと思っております。そのためパシフィックリーグは非常に若い力が野球界に色々と刺激を与えてくれる逸材になってくれるのではないかと思います。

プロ野球西武ライオンズのOBが4名、現在監督になっております。工藤公康、大久保博元、田辺徳雄、伊藤勤、そして昨年は秋山が監督をしていました。この中で優勝候補に絡むのは、戦力を誇るソフトバンクホークスかなと思っております。今年のパシフィックリーグはソフトバンクかオリックスブルーバックスが1位2位、3位4位が日本ハムか西武、5位6位がロッテか楽天かという所で順位予想をしておりますが、この後輩たちが皆それぞれ自分の考え方、個性を持って指導をしてくれます。俗に名将、智将という評価がございますが、今までは三原さんや川上さん等、歴代の優秀な戦績を残した方がそのような称号を頂いております。私も何人かの監督の下で野球をやらせて頂きましたが、私の考えの中においては、名将、智将と言われる方は広岡達朗さんかなと思っております。

森さんも西武に9年在籍し、8度のリーグ優勝を致しました。野村さんもヤクルトで勝ちました。仰木さんも、星野さんも勝ちました。しかし広岡さんだけは弱いヤクルトに行き、2年か3年で優勝に導きました。勝てなかった西武ライオンズに来て、1年目から優勝に導いていきました。名将・智将と呼ばれる方々がチームを勝たせることは確かにあると思っております。しかし案外、名将・智将は選手が結果を出して優勝し、その結果その時の監督だった人が名将・智将という称号を頂いていくのではなかろうかという気が致します。森さんも野村さんも横浜に行って勝てなかった、阪神・楽天に行って勝てなかったわけです。しかし唯一広岡さんだけは、どの球団に行っても勝たせたわけです。

我々プロ野球の人間というものは、大体特殊技能を持った人間です。いわゆる投げる、打つ、捕る、全てにおいて優秀なテクニックを持っている人間がドラフト指名を受けてプロ野球界に入ります。しかしある面で優秀には間違いありませんが、とは言えまだまだ未熟なものも沢山ございます。その未熟なスキルを、例えばわかり易い例で言いますと、2割5分のバッターを2割7分にする、2割7分のバッターを3割にする、10勝のピッチャーを13勝にする、そうしたスキルアップを図るような指導をしていって、全体のチーム力を高め、その高まったチーム力で勝てる確率の高い戦術、戦略を使ってゲームを行っていく、そうすることによって広岡さんはヤクルトでも西武でも勝たせたわけです。我々のような教え子は、非常に感謝をしております。厳しかったです。田淵さんがいらっしやいました。やや太めで動かずDHでしたが、その点を広岡さんに怒られました。「なぜDH、打つだけの人間がそんなに給料をもらうのだ。ふざけるな。野球選手は投げて打って走って、それでなんぼだ。田淵幸一を再生しよう」としごきました。そしてそのためには肉体作りも必要で、そのためにはコンディション作りも必要、そのためには食事も必要だと始まって、我々は自然食なるものの研修を受け、それを食べていきました。そのおかげでレギュラー選手がほとんど休まずに、ゲームに出ることができました。いわゆる戦力ダウンが無くなったわけです。プロ野球に入って10数年しても優勝の経験のない田淵さんが、37~38歳で初めて優勝をして、子供のようにしゃいでいました。優勝というものにはそれだけの魅力があるわけです。

ちょうどその時代、80年81年位はプロ野球界の過渡期でございまして、昔は飲もうが遊ぼうが、2日酔いでゲームに出ようが打てば良いだろう、勝てば良いだろうという感じでしたが、それではいけないと、管理野球というものが入ってきました。それ以前に行っていたのが川上巨人軍でございます。だから勝っていたわけです。そして広岡さんが行いました。

先輩たち、田淵さん、山崎さん、大田さん、東尾さん、その辺のベテランの方々には野武士と言われ、好き勝手なことをしておりましたが、それが急に締め付けられたものですから反発がございました。しかしその厳しい指導によって選手たちは良い思い出ができました。ある面では厳しい指導、厳しい教育、そういったものが必要ではなかろうかという気が致します。今は俗にコーチングなるもの、もう一つは褒めて育てるという言葉が流行っているようですが、まだまだティーチングの時代で良いのではなかろうかと思っております。そのティーチングを行うのは、皆様方の人生の先人の方々が、プライドとエネルギーを持って若者に苦言を呈して頂きたいと思っております。

プロ野球、現在12球団で運営されておりますが、



昨年5月に安倍総理が「日本再生プロジェクト」なるものの中で、アベノミクスの一つの成長戦略の中の地方の活性化なるもので、プロ野球16球団構想を謳ってくれました。既存の12球団に沖縄、四国、静岡、北陸で4球団増やしましょうということです。安倍さんは昨年ずっと財界人を連れて、各国にトップセールスを行ってまいりました。その辺の人脈をフルに利用して、財界人に色々とトップダウン的に話を下されれば可能性は高まると思います。

プロ野球の1球団の事業規模は、年間150億円~200億円かかります。今は野球協約の中で、1企業1球団というルールがございまして、複数の企業が持ち寄る球団経営にはなってごさいません。

プロ野球80年の歴史がございまして、昔は鉄道会社、阪神、阪急、南海、西鉄、西武と、そして一時期映画会社、東映、大映、そして新聞・マスコミ、巨人、中日、TBS、フジテレビ、そして食品系、日本ハム、ロッテ、ヤクルト、そして今はIT、ソフトバンク、楽天、DNA、こうしたものが時代を反映している産業として、プロ野球の経営をしてきております。一方プロ野球よりも50年も長い歴史を持つ社会人野球がございまして、俗にノンプロと言われておりますが、これは日本独自のもので歴史もございまして、1878年、鉄道管理局が作った「新橋アスレチッククラブ」からスタートしていきます。1927年、今の都市対抗なるものがスタートしていきました。私も大学を卒業し、プリンスホテルという社会人野球を選んで入りましたが、その当時の社会人野球チームは230チームございまして、バブルが弾けて以降、今は70弱に減りつつございまして。

社会人野球を経営してくれている企業は、日本のプロ野球球団を運営する企業よりも事業規模が大きい会社が経営してくれています。トップダウン的に、安倍総理の方から「社会人野球を辞めて、皆プロに行け」と、例えば車産業、トヨタ、ホンダ、ホンダはこの狭山にもございまして、熊本、鈴鹿と3チーム経営してくれており、そして日産、スズキと、この自動車産業で一つの球団を静岡に、そして電気関係、東芝、日立、パナソニック、三菱も社会人野球を持ってきておりますので、この電気関係で一つ球団を北陸石川県に、そして鉄、新日鉄、JFE、更に紙、大王製紙、日本製紙、ユニチャーム等々で一つ球団を四国に、そして後は生保、日本生命、明治安田生命、第一生命等々で沖縄に一つ球団を持ってくれとすると、可能性は高まると思います。そして更に大きな会社、NTT、JR、JA、全日空、日本航空は、プロ野球全体のオフィシャルスポンサーになってくれはしないかと、そうした形でいけば日本に16カ所、これを政令都市に1軍を置いて、経営して行きましょう、そして50万都市にはこの2軍を、30万都市には3軍を、10万都市には4軍をとということにしていけば、

今問題の地方創生なるものの発展になっていくのかと思います。

10年前に楽天が仙台に行きました。その前には北海道に日本ハムが行き、こうしたプロ球団が行くことによって地域は栄えて参ります。この辺に手本として色々なプロ球団が、或いはサッカーのJ1でも構いませんが、プロスポーツが地域に散らばっていけば、地方創生、地方は栄えていくかと思えます。そうしたことから日本の野球界も、今は全体的に物を考え、大きなグラウンドデザインを書いて示す、そういう時代に来て良いのではないかと思います。参考にするものは、Jリーグのやり方で良いと思います。もっと野球界が素直になり、人から色々と学んでいこうという、そうした姿勢があって然るべきではなからうかと思っております。当然3軍、4軍まで抱えた以外には、プロ野球もそろそろユースを抱えても良いのではないかという気がしてなりません。サッカーはそれでだいぶレベルが上がって参りました。

もうじき選抜が始まりますが、中学まで野球をやっていた子供は大体高校に行って野球を致します。この高校は高野連という所に入っており、高体連とは違う、また別なものでございまして。この高野連は主に毎日新聞が選抜を行い、朝日新聞が夏の甲子園大会を行います。これは高野連特別です。アマチュアで高校生のゲームでありながら、我々一般から入場料を取って興行を行っております。スポンサーは民間です。高校のバスケットボールチームやバレーボールチームがどこかの県営体育館を借りて、入場料を取って大会を開くことは、まず稀です。

高野連はその事業モデルを作り潤沢な資金の元、大阪の一等地に自社ビルを持って運営をしております。それならばプロ野球界を中心にユースを立ち上げましょう、そうすることによって、日本のプロ野球OBのセカンドキャリアとして、受け皿にもなります。そしてレベルも高まります。例えば西武ライオンズ、所沢に一つでは足りません。所沢、大宮、或いはキャンプの南郷に一つ、狭山でもOKだと思っております。最低3つを持ち、12球団で36チーム、これを基盤に、甲子園ではないけれども夏は東京ドームで、次の年は大阪ドームで、次は札幌ドームと、地方のドームを転々としていく、子供たちに、当事者に、親御さんに高野連に入って甲子園を目指しますか、ユースに来てプロ野球を目指しますか、こちらはプロアマ規定がなくして、プロのOBが指導者をあてがいます、大会をこのように開いていきますと、このようなことも私は良いのではないかと思います。それとは別に、私は96年に引退をし、97年にアメリカへコーチ留学をさせて頂きました。ロサンゼルス・ドジャースへ行き、ちょうど野茂秀雄がトルネードで3年目を頑張っている時でございました。その時にお世話になった人間が、岡山出身でロサンゼルスのリトル・トーキョーに住んでい



た藤本という人間です。この藤本さんも時々帰ってくるのですが、よく色々とお互いの夢を語ります。藤本さんも高校球児でございました。

先日2人で、「こんな大会できないか」と話しておりました。命名は「スーパー高校生・秋の甲子園大会」というもので、先ほど申しましたように、春は毎日、夏は朝日、秋の「スーパー甲子園」は読売が担当したらどうかということです。そして大会の目的は、いくら個人成績がよくても甲子園に出場できない選手がたくさんおります。高校球児は3年間ひたすら甲子園を目指して練習に励み、試合を行って参ります。3年間最後まで努力して、そして良い数字を残した人間、各ポジション2名を選出していく、そして高野連が仕切る、監督はその夏甲子園に連れてった監督に対応してもらうというものです。夏の甲子園に出られなくても、或いは夏までに甲子園に出場できなくても、3年間の内に優秀な成績を、県下の中で1番か2番を残した選手には、最後のチャンスを与えましょうというものです。自分の頑張り、実力次第でスーパー甲子園に出て、皆にお披露目できるとすると、途中で悪さをする奴もいなくなるだろうと、健全なスポーツ精神が司っていくはずだろうと、また観客の皆さんも春・夏の甲子園よりもはるかにレベルの高い、例えば千葉でしたら、高校単位ではなくオール千葉で行くわけですから、そうするとまた地元意識、47都道府県、我が町のチームをより応援していくのではないかと思います。いわゆる郷土愛を強く持ちながら、その人たちが甲子園へ運ぶ新聞を見る、そのことによって色々な経済効果を生むことができるのではないかと、これも一つやってみたいという話をしております。

そしてもう一つは、野球の国体を開きたいということです。私は千葉出身でございますが、総監督を長嶋茂雄さんにして頂き、プロOBが何人か、プロ現役が何人か、社会人野球が何人か、大学生、高校生も何人かであるというもので、これは駅伝が都道府県別をしておりますが、駅伝の野球版で出来ないのか、結構盛り上がるのではなかろうかと思えます。野球というツールを利用して、色々経済効果を生み、地方を盛り上げる、そのような手法はたくさんあるのではないかという気がしてなりません。

今、時より私は大分県へ行きます。こうした2足のわらじ、これは革靴ですが、野球のスパイクの裏になります。EX-SPORTSと書いてありますが、EXはEXPANSION(拡大する)、SPORTSはスポーツです。地方から野球を、或いはスポーツを含めて、色々な形で拡大できていかないかという意味合いで関わっているのですが、実は大分県の国東市このような試みをしております。地方から今どんどん若者がいなくなり、困っています。地方には第一次産業と地場産業が沢山あり、その労働力、就農者がいないわけです。そのため今国は地方創生と言って、いかに地方を元気づる

かということ国策として考えています。特に農業においては、色々な補助金を出しながら、考えております。今国東市と私の東京にいるIT関係の友人がお金を出しあって会社を創りました。産業創出機構という第3セクター的な会社であります。が、半官半民でございます。今この国東市に若者、余所者を呼び込もうという施策をとってございます。3期目を迎えますが、第1期4名、第2期8名、計12名の若者、余所者が今この国東市に行って、定住を図ろうとしております。何をしているかと言いますと、その産業創出機構が1年間月給16万円を払うので、1年間、あるいは2年間、農業なり、地場産業なりの研修をして下さいというものです。その研修の間は給料を払うので、その後その身に付けたスキルで2年後、3年後には起業をし、社長をして下さいという試みでございます。第1期生の4名が、主に農業ですが、今年4月に会社を立ち上げて運営していきます。

国東市は大分空港があり、大分湾の中にはいわゆる関サバ、関アジというブランド制度がございまして、これは割と有名な水産物です。鮮度が良いものが大分空港からすぐに出ていくのですが、そこを利用して、魚のみならず大分で作った農産物も一緒に流通して欲しいというものです。

町づくり協力隊、雇用創出事業、色々なものの補助金がございまして、そして空いている日は事業計画を作る等して、起業するためのセミナーを開き、勉強しております。今年4月に立ち上げる人間は、今年収700万円を目論んでおります。今現在12名の若者が行っておりますが、これを我々は「ワンピースケイ」と言っております。海賊の漫画にワンピースというものがあるそうですが、足りない所を皆で補いながら成長して、一つのグループとしてやっていこうということです。知らない余所者がいきなり大分へ行き頑張れと言ったら、皆へこたれてしまいますので、仲間で助け合ってやって欲しいということです。

3月11日に私の母校、駒澤大学に行き、企業説明会なるもので出品をさせて頂きました。後輩たちを集めて、「大分で今このような試みをしているので行って欲しい。会社勤めをして20万円位の給料を貰い、競争手を間近にし、色々頑張る努力をするのだからけれども、最終的にノイローゼ、躁鬱になって引きこもり、そんな人生は楽しいか。地方に行って好きなことをし、ワンピースケイの仲間と助け合い、年収1億円位の企業の社長にならないか。」という話をしてきました。キャリアセンターの部長は「お前の所に、学生はこないだろうな。」と心配をしておりましたが、2時間のセミナーの間に35名の若者が来て、実は昨日、第1回目の就職説明会を開きました。そこには9名の若者が来てくれました。いわゆる色気があるのです。会社に勤めて扱き使われるよりは、1年~3年は丁稚奉公で仕事を覚えて、その後は自分の手一つでお金を稼ぎたいという、そのようなエネ

ルギーを持った若者が何名かおりました。

このようなモデルを行っているので、そこに私は野球人として、プロ野球でクビになった人間の受け皿として、国東で百姓をしてくれないかということをお話しています。東京農業大学等、色々な所に行きました。色々な大学に行き、こんなことをやっているの、野球経験者が来てくれないかと、いわゆるこれが2足のわらじです。社長と野球選手、大学まで野球をし、プロ野球選手になれなかった、今は企業も厳しいですからそう簡単に社会人野球にも入っていきません。結果4年で断念する選手はたくさんおります。しかし野球を諦めきれないはずなのです。それならば野球を捨てなくてもいいので、百姓もやって欲しい、地場産業をして欲しいということなのです。それで仲間が集まれば、チームを作って都市対抗に出られるではないか、東京ドームに行き、作った野菜を売ろうと、新たなスポーツ事業、スポーツの在り方とを、今は野球ですがそのうちにサッカーも、あるいはミュージシャンでも、色々なものを含めて、余所者が地方に集まるといったことを今行っております。非常に楽しいです。若者は非常に色々な考えを持っております。この若者の受け皿を、色々な環境やアイデアを出しながら、若者を引き止めたい、引き受けたいと思っております。

地元大分の方々も「先祖代々の土地があるけれども、遊ばせて勿体ないのだ。けれども売りたいはない。誰かやってくれる人がいるならば預けても良い。」と受け入れ態勢を作っております。地元の方々、余所者のコラボレーションを図る、そこには国も県も市も協力をして、補助金も出す、そしてITの人たちが経営コンサルタントとして色々な勉強やセミナーを開いております。非常に新しい形で地方が甦りつつあるのではなからうかという気がしてなりません。

高齢化が問題になっております。今日のメンバーにはそれほど高齢の方はいらっしゃらないと思っておりますが、いわゆる社会保障費が上がって、若者や子育て世代の負担が大きくなるからです。しかし本来、高齢化社会は素晴らしい社会であると思っております。今年戦後70周年を迎えますが、それからの復興、皆様方の人生の先人たちが、色々沢山頑張ってくれたのです。そのため皆さんは誇って良いと、うぬぼれて良いと、もっと頑固になって良いと思っております。しかし医療、介護、福祉においてはお金がかかります。ではどうするのかと言いますと、狭山を、この地区を稼げる町にしたなら、それは可能であると思っております。若者が定住し、起業できる、そういった支援を大分のようにしていけば、可能性は高まっていくわけです。働く職場よりも、働きたい場所、職場を作れば良いとおもっております。町を変えるには、俗に余所者、若者、ばか者と言いますが、そこにもう一つほら吹き者、これは嘘つきのことではなく、壮大な夢を持つもの、これが必要ではなから

うかと思っております。若者を受け入れるアイデアを持ち、環境整備をし、それを地方から発信していく、地元の若者がある面では育成していく、余所者を使って地方を、若者を元気にするのだということです。今まではより遠く、より早くを望んできましたが、逆に地方は、より近く、より遅くという発想でも良いのではないかと、スローライフを進めても良いのではないかと思います。

私は野球を基に、野球をツールとして何が自分にできるのかというスタンスで、11年前に日本初の独立リーグ、四国アイランドリーグを作らせて頂きました。若者が夢にチャレンジする、夢を成就する、そこにOBが力を貸す、そして経済効果を生み、地域を元気にしていく、そんな思いでこの四国アイランドリーグを作りました。皆様は今まで自分が培ってきた得意分野で考えてみて下さい。それを成就するために、ロータリアンがタッグを組み、広い見地で知恵を出し、広く意見を求め、そして実現できる可能性を探っていく、それが可能だと思っております。

昨年11月、私にとっては非常に悲しい出来事がありました。高倉健さんの死でございました。子供の頃から兄に連れられて、網走番外地、昭和残侠伝、いわゆる侠客という映画を良く観に行きました。学生時代は幸せの黄色いハンカチ、遙かなる山の呼び声、社会人時代は海峡、そういった映画を観ることができました。健さんから、映画を観て、義理と人情を秤にかければ義理の方が重たいのだということも習ってきました。

良い習慣は才能を超えと言います。健さんは正に、才能の有無に関わらず、或いは好き嫌いには関係なく、仕事という習慣を通して、己を鍛え上げた人だと思っております。健さんが亡くなった後、数日間、数々の特集番組がございました。追悼本も沢山出ておりました。それは高倉健という俳優に憧れて、高倉健という生き様に共鳴した人が恐らく数多くいたからでしょう。男は黙って仕事をする、健さんの仕事ぶりを見て、そんなことを習いました。

オリックスの監督時代、負けが込みました。ゲーム後練習を行い、12時くらいにクラブハウスを出ていきます。お腹が空き、赤ちょうちんのお好み焼き屋に帰りの車を停めて入りました。お腹が空いたからお好み焼きを焼いてとおばちゃんに頼み、ふと目を上げますと、目の前の赤いポスターの高倉健さんがおりました。その時のキャッチコピーが「まっすぐで、いいんじゃないですか。」でした。球団幹部といろいろあった時、くじけそうな時も何日かございました。しかし「まっすぐで、いいんじゃないですか。」というキャッチコピーに救われました。結果、心折らずに、心のプレを作らずにやり通したら、クビになりました。幸せの黄色いハンカチのラストシーン、多数の黄色いハンカチが風にたなびいていたシーンは感動致しました。健さんと、奥さん役の倍賞千恵子の

再会、愛する人を思い、愛する人を待ち続ける男と女、健さんの死で忘れていた大事なものを思い起こさせて頂きました。

義理、人情、仁義、道理、日本人の一番の素晴らしい国民性だと思っております。この精神が欧米諸国には一番怖かったはずで、日本人の一番の武器だと思っております。皆さんはそれを恐らくお持ちであると思っております。男は黙って仕事を、男は背中で勝負をする、今はプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力が必要なのだ、いわゆる携帯やメールの普及によってこのようなことが言われてきました。人生の先人の方々には、その人間の持っている本能を見極める眼力をお持ちだと思っております。その目で、時代を担う若者を育てていってほしいと思っております。「石毛わかったよ。皆そう思っているよ。でもなかなか具体的に動けないし、無理だよ。」と言われるかもしれません。私も独立リーグを立ち上げる時に「どうせ無理だ」と言われました。「どうせ無理」だったら「こうしてみよう」、このようにコメントを発して頂いて、出来ない理由を探すのではなく、出来る理由を考えていきたいと思えます。生れ育った故郷を皆で考え、皆さんで行動を共にして、我が町を育てていってほしいと思っております。

この IM の狙いがどこにあるのか、私はわかりませんが、これだけの方が集うわけですから、この後の懇親会も含めて、皆さんの熱量で今日の会が益々盛り上がることをお祈りして、私のお話を終わらせて頂きます。

#### IM 講評 坂本元彦ガバナー

私野球選手のお話を聞いたのは初めてなのですが、野球の技術も非常に素晴らしかったのですが、話術も素晴らしかったです。その認識をしたということだけでも、今日のこの IM の良い所があったのかも知れません。

一つ一つのを取り立てて言うことはございませんが、順番で言いますと、補佐さんのテーマがまず良かったと思えます。次につなげようということは、大変素晴らしいことだと思います。先ほどの挨拶の中でも言いましたけれども、次につなげるためには、やはりそのつなげる楽しさ、良さというものをわかるということ、教えて頂いたということがあるともいます。そして中程の四重奏、よくロータリーはオーケストラだというようなことをおっしゃる方がいます。そして会長さんなり、ガバナーもそうでしょうが、それは指揮者なのだということです。オーケストラであって、もすべからず、先ほどの 4 人の方のようにスキルが良ければ、一糸乱れぬ演奏をされるでしょうけれども、ロータリーというものに関して言うと、そうでないこともあるかも知れません。変な音を出す方も、良い音を出す方もいるでしょう。それをどうまとめていくかということが、クラブの指

導者であり、地区の指導者であり、RI の指導者なのだと思えます。

このようにロータリーというものはオーケストラであるということ、そしてもっと言えば、パストガバナー、パスト会長は評論家だと、そのように言っております。当たっているのかどうかはわかりませんが、当たらずとも遠からずであろうと思っております。ロータリーはオーケストラなのだ、キーキー声を出す方もいるかも知れませんが、それをまとめて下さいねということになるのでしょうか。そのようなことを、先ほどの四重奏から学んだのかも知れません。

石毛さんのお話は、色々良いことを言っておりました。指導は厳しくということが名将であり、智将であるとおっしゃっておりましたが、そうだったのだ、私もそうすれば良かったと思えました。しかし年度もそろそろ終わりますので、これは次年度の高柳さんに、是非厳しくやってほしいということを伝えておこうと思っております。そしてプロ野球でもなんでも、ユースを作るというようなことをおっしゃっておりました。ロータリーもそうかも知れません。ロータリーもロータリーユースというものを、ロータリアンの土台となる方を各地域で考えて作って頂ければ、今後増強ということに関しても、そう苦勞をしなくていいのかも知れません。やはりどんな組織でも自分達だけで成り立っている訳ではございませんので、是非裾野を広くすることが大切なのだらうということをおっしゃいました。

そしてやはりプロ野球というものは、色々な球団が競う、言ってみればロータリーもそうなのかも知れません。この地区に 5 グループあるということは、ただ単にあるということではなく、第 1~第 5 グループ、これが良い意味で競うグループでなければ、発展性は無いのかも知れません。我々のグループはもっと素晴らしいことをしよう、もっと良いことをしよう、地区の指導者としてももっと良い指導者を作ろう、出そうと各グループの方に考えて頂ければ、このグループに分かれている意義もあり、そして今日のこの IM というものを行う意味・意義もあるのだらうと思えます。唯集まって、ワイワイ行えばよいということではないと思えます。是非各グループの、良い意味での自立、今後の地区の発展のために良い指導者を作るような、また良いクラブの発展性のある奉仕活動等々を行って頂ければ良いのではないのでしょうか。そのように思えます。

最後に、石毛さんがおっしゃった高倉健の「まっすぐがいい」ということ、これを私はトイレに行ったときに考えまして、そうしようと思えました。アメリカの詩人のサミエル・ウルマンが「青春とは心の様相を言うのだ。体の作り等を言っているのではない。」と書いておられます。気持ちがいっぱいしていれば、歳がいくつになっても青春であるということなのでしょう。言い換えれば、



ロータリアンとは心の様相を言うのだということに通ずるのかも知れません。

常に良いロータリアンであるために、当たっているかどうかはわかりませんが、奉仕の理念というものを心に持って、ロータリー人生を謳歌しているわけではありませんか。せっかく同時期、この世の中で一時代同じ時に生まれて過ごしているのですから、喧嘩をすることはありません。

## ．．．．第二部懇親会．．．．

司会 ホストクラブ幹事 江原伸夫  
開宴挨拶 沼崎ガバナー補佐

滞りなく終わることができました。本当にありがとうございます。これから第2部の懇親会を始めます。狭山の地に皆さんいらっしゃって頂きまして、本当にありがとうございました。

実行委員さんがなけなしの予算の中で、せめておもてなしの心だけは一人前にしたいと、催しをしておりますので、是非最後まで楽しんで頂きたいと思っております。宜しくお願い致します。



来賓挨拶 坂本元彦ガバナー

先ほどは素晴らしいIMを開催して頂きました。そして懇親会、ロータリーを楽しもうということの一つには、大いに飲んで食べて話そう、そして親睦を深めていこうということがあると思います。先ほどちらりと料理をみましたら、美味しそうなのがございましたので、皆さん楽しい懇親会になればと思っております。



## 乾杯

人間ロータリークラブ会長 加藤国夫様

皆さんこんばんは。  
ただ今国際ロータリー第2570地区、第3グループのIMが立派に行われたと私は思っております。これにつきまして、今日は坂本ガバナーにおいで頂き、そして石毛さんもおいでになられ、大変素晴らしいお話を聞かせて頂きました。何か質問があるかという時に、西武ライオンズに戻る気はないのかと、そんなことをお聞きしたかったのですが、今日はそのお話を聞かせて頂きたいと思っております。

2570地区の第3グループのクラブの益々のご繁栄と、本日お集まり頂きましたご健康と弥栄をご祈念申し上げます、乾杯の音頭を取らせて頂きます。

挨拶 第三グループパストガバナー石川嘉彦様



今日は素晴らしいIMを、沼崎さんありがとうございました。そしてこの設営を下された狭山中央ロータリークラブの皆様、本当にありがとうございます。素晴らしいIMでございました。

そして石毛さんのスピーチは、先ほども申し上げましたが、野球の選手かスピーカーかわからないような、野球は勿論のことなのですが、話術の素晴らしさに感動致しました。私も少し勉強しなければならぬと思いました。

今日は第3グループのIMですが、IMとは、昔はICGF(InterCityGeneralForum)と言っておりました。これはアメリカが発祥で、アメリカのクラブは遠い所にありますから、たまには多くのクラブと一緒に集まってミーティングをしよう、親睦を深めようということが原点だったのです。今日はまさにその通りでして、第3グループの12クラブの大勢の普段は会わない皆様とこうして集まる機会を作って頂いたこと、大変嬉しく思っております。

私は地区大会も勿論好きなのですが、このIMが一番好きなのです。理由は、地区大会となりますと熊谷、深谷、和光等非常に遠くなってしまうのですが、IMは地域ですのでとても良いコミュニケーションがとり易いのです。そうした意味でこのIMがとても好きで、大切に思っております。過去のIMもとても素晴らしいものでしたが、今日のIMはとても嬉しく、沼崎さん、本当にありがとうございました。今日はお招き頂いたと同時に、こうして皆様と話が出来たこと、大変嬉しく思っております。

簡単ではございますが、これで挨拶を終わらせたいと思っております。とにかく狭山中央ロータリークラブの皆様と沼崎ガバナー補佐に心から御礼を申し上げます。ありがとうございました。

## 中締め

新狭山ロータリークラブ会長 伊藤宣明様

今日はお忙しい所、たくさんの方がおいで下さりましてありがとうございます。また沼崎ガバナー補佐さん、狭山中央ロータリークラブの皆さんに、本当に素晴らしい IM を企画して頂きまして、ありがとうございました。

普段忙しさに感けて、コンサートをゆっくり聞くような機会もありませんでしたし、また超一流プレイヤーというのは、素晴らしいスピーチをし、仕事の取り組み方、考え方がやはり違うのだなと改めて考えさせられました。石毛さんの心に響いたこれを、私も明日から実際の仕事の場で実践していきたいと思っております。

引退しても若い人、後進を育てていく、そしてまた町おこしを手伝っているということは、我々ロータリアンの奉仕の精神に繋がる事ではないかと思えます。我々も会員増強を図りまして、奉仕の精神を社会に益々広めていかなければならないと改めて思いました。

本日はありがとうございます。



## 大締め

狭山ロータリークラブ会長 大澤譲司様

2570 地区、第 3 グループの IM、大成功であったと思います。沼崎ガバナー補佐、狭山中央ロータリークラブの皆様、本当にご苦労様でした。大変な思いをしたと思います。ありがとうございました。

そして第 3 グループの益々の発展を祈念致しまして、一本締めをしたいと思えます。



## 終宴挨拶

栗原成実実行委員長

大分肩の荷がおりたようで、一人で飲んだような真赤な顔をしておりますが、実は今週 9~10 日に狭山中央ロータリークラブは東京方面の 1 泊の親睦旅行をしてまいりました。大変楽しい旅行だったのですが、その時、どうも肩が張って困ったな、夜もよく眠れないと思っておりました。しかしよくよく考えてみましたらこの IM が今日 14 日に控えていたわけです。今夜は多分、肩の荷が下りてゆっくり眠れることでしょう。皆様の協力を得まして、沼崎ガバナー補佐の元で、第 3 グループの IM が無事終了致しますことを、実行委員長と致しましては大変嬉しく思っております。

本日はお忙しい中、大勢の方にご参集して頂きまして大変ありがとうございました。またこの IM というものは、近隣のクラブが年 1 回集う場所でございますので、是非来年度も、どんな形でも良いので IM を実行していきたい、そのような思いを強くした次第でございます。今日は大変ご協力、ありがとうございました。

## 次の例会

4月7日(火) 例会臨時変更

家族同伴お花見夜間例会

点鐘 午後6時

会場 ニックス

